

# 雄牛との対決:

牛の意識と市場の買い含みに関する雑感の反省

私の中には何か人間ではないものがある。

奥深くに大きな雄牛が住んでいます。

その雄牛は、私の意識をのんびり散歩し、  
尾をぶらぶらさせて、のんびりと放牧させてくれます。

一般的には平和な、この雄牛の心の中は、  
広大な緑の牧草地や牛のハーレムの夢を見る。

その雄牛は、哲学にはまったく関心がないし、  
いつかはハンバーガーの肉になりことを気に病んでいない。

のんびり反芻しながら、ゆったりと肥える、  
私の中の人間の部分がうらやましがるほどに。

ああ、でも現実はそんなに甘くはない。

高値がつくタイミングで、

この立派な生き物は虐殺され、

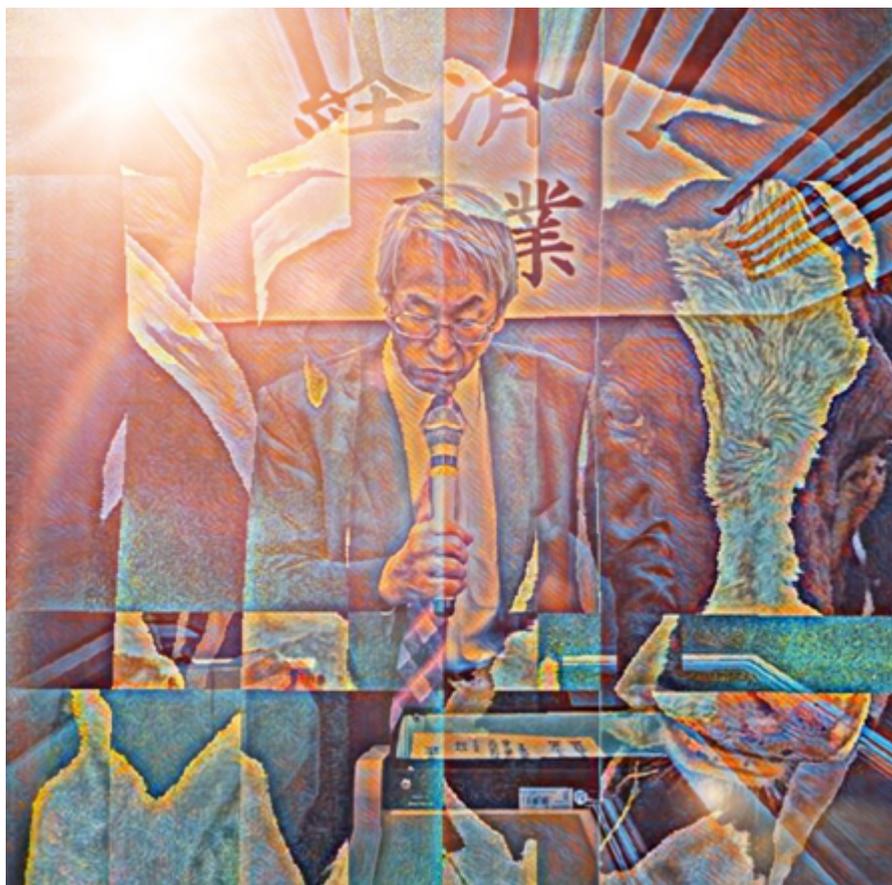
細かく刻まれ、凍結され、ラップに包まれ、

その後、

「今夜の夕食は何にしましょうか。」

を考えているの消費者によって

買い上げられる。



**ティン：** 私たちは動物に対してもっと思いやりを持たなければなりません。

**ミン：** 確かに。確かに人間は社会的なネットワークの規模では、独特な存在ではあるが、自分たちも単に動物に過ぎない存在であることを忘れてはならない。

- T Newfields (和訳: 樋谷メリッサとテレサさん)

開始: 2004年 東京都 ♪ 完成: 2018年 横浜市

